

機 関 名	農業試験場	課題コード	H270304	事業年度	H27 年度 ~ H31 年度		
課 題 名	野菜のオリジナル品種を核とした秋田ブランドを確立する新品種育成						
機関長名	熊谷 譲	担当(班)名	園芸育種・種苗				
連絡先	018-881-3317	担当者名	佐藤 友博				
政策コード	2	政策名	国内外に打って出る攻めの農林水産戦略				
施策コード	1	施策名	“オール秋田”で取り組むブランド農業の拡大				
指標コード	6	施策の方向性	生産・消費現場と密着した試験研究の推進				
種 別	重点(事項名)	野菜・花きの県オリジナル品種育成による生産拡大			基盤		
	研究	開発	○	試験	調査		
	県単	○	国補	共同	受託		
評価対象課題の内容							
<p>1 研究の目的・概要</p> <p>県オリジナル品種を核とした「秋田ブランド」の確立に寄与するため、現在まで、エダマメ「あきた香り五葉」やスイカ「あきた夏丸」等、6作物21品種を育成した。次の段階として、育成した品種のラインナップ強化と改良を重点的に行う。これまでの「マーケットイン型育種」を基本として次の作物について取り組む。全県的に生産拡大が期待されるエダマメ、ネギは、県を挙げた生産・販売戦略の取り組みの中で、施策に貢献できるような品種を重点的に育成する。スイカ、メロン、イチゴ、地域特産品種は、高品質で耐病性がある等、産地のニーズに応えた品種や中山間地に提案できる品種を育成する。</p>							
<p>2 課題設定の背景(問題の所在、市場・ニーズの状況等)</p> <p>野菜等を組み合わせた複合化推進は本県農業の長年の課題であり、国際情勢の変化や国の農政改革で、県内野菜のブランド化に対する要望は、強くなっている。本県の野菜生産は、集落営農組織などの大規模経営体と、既存の個別経営農家が共存している。エダマメを対象とした県をあげた生産・販売戦略は、供給量の増加と中央市場での占有率の拡大につながっており、エダマメ、ネギはこの施策に貢献できるような品種が求められている。地域の中で生産振興上、重要なスイカ、メロン、イチゴと地域特産品種については、産地のニーズに応えた品種が求められている。</p>							
<p>3 課題設定時の最終到達目標</p> <p>①研究の最終到達目標</p> <p>(1)エダマメ:晩生品種の育成、「あきた香り五葉」へ土壌病害抵抗性を付与した系統の選抜 (2)ネギ:晩抽性6月どり用品種の育成、夏どり用及びびなべ用系統の選抜 (3)スイカ:早生品種育成による夏丸ラインナップ強化、FR系(つる割病抵抗性)系統の選抜 (4)メロン:えそ斑点病抵抗性品種の育成 (5)イチゴ:四季成り性品種の育成 (6)地域特産:有色系辛みダイコン品種育成、いぶりダイコン漬け用品種ラインナップ強化、食用ギク系統選抜</p> <p>②研究成果の受益対象(対象者数を含む)及び受益者への貢献度</p> <p>エダマメ(中晩生、晩生種):200ha、ネギ(6月どり、夏どり):180ha、スイカ(大玉、小玉):355ha、メロン(ハウス、露地這い栽培):45ha、イチゴ(1ha)、地域特産品種。県内のそれぞれの品目の生産農家及び生産集団。</p>							
4 全体計画及び財源 (全体計画において ≡≡ 計画 — 実績)							
実施内容	到達目標	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	(最終年度)31年度
エダマメ	晩生種育成、「あきた香り五葉」へ病害抵抗性を付与した系統選抜						
ネギ	晩抽性6月どり品種の育成、夏どり用及びびなべ用系統の選抜						
スイカ	早生品種育成で夏丸ラインナップ強化、つる割病抵抗性系統選抜						
メロン	えそ斑点病抵抗性品種の育成						
イチゴ	四季成り性品種の育成						
地域特産品種(辛味ダイコン等)	ダイコン品種育成でラインナップ強化、食用ギクの有望系統選抜						合計
計画予算額(千円)		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	10,000
当初予算額(千円)		1,785	1,517	1,213			4,515
財源内訳	一般財源	1,785	1,517	1,213			4,515
	国費						0
	その他						0

観点	
<p>1</p> <p>ニーズの状況変化</p>	<p>○ A ● B ○ C ○ D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エダマメ、スイカのオリジナル品種は、生産者、市場関係者の評価が高く、新品種へのニーズはますます高くなっている。ネギも主産地の山本地区を中心に晩抽性で5～6月どり品種等の要望がある。これらは、県のナショナルブランド野菜であり、行政施策上もさらに重要性が増している。 ・近年、県内のメロン産地では、えそ斑点病が広がっており、抵抗性品種が求められている。 ・地域特産野菜の希少性と独自性が見直されている中、その商品化に向けて育種的手法による問題解決が求められている。 <p>(委員の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嗜好性の強いえだまめなどは、オリジナル品種の優位性が販売に直結していることから、品種開発に対するニーズは高い。 <hr/> <p>A. ニーズの増大とともに研究目的の意義も高まっている C. ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている</p> <p>B. ニーズに大きな変動はない D. ニーズがほとんどなく、研究目的の意義がほとんどなくなっている</p>
<p>2</p> <p>効果</p>	<p>● A ○ B ○ C ○ D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27、28年度、エダマメ日本一を達成したが、県内外の関係者から、「オリジナル品種を核とした長期継続出荷は秋田の強み」と評価されており、今後の育種効果も期待できる。 ・ネギは、品種によって、期待される周年出荷の実現や、秋田美人ねぎブランドへの貢献が期待できる。 ・スイカは、「あきた夏丸チツチェ」の評価が特に高く、指名買い、高単価取引されており、「あきた夏丸」のラインナップ強化の効果は大きい。 ・メロンは、えそ斑点病抵抗の付与で、高品質生産による農家所得の向上や産地拡大が期待できる。 ・地域特産野菜の育成は、6次産業化や中山間地振興のための地域資源として期待できる。 <p>(委員の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えだまめやすいかでは、オリジナル品種のシリーズ化により、長期継続出荷の実現や、量販店等からの指名買いなど、実需者からの評価が高まっている。 <hr/> <p>A. 大きな効果が期待される C. 小さな効果が期待される</p> <p>B. 効果が期待される D. 効果はほとんど見込めない</p>
<p>3</p> <p>進捗状況</p>	<p>● A ○ B ○ C ○ D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品種登録申請済み品種：平成27、28年度に、春どり用の晩抽性一本太ネギ「秋田はるっこ」、根部が紫色の辛みダイコン「あきたおにしぼり紫」、えそ斑点病抵抗性のアールスメロン「秋田甘えんぼレッドR」、「秋田甘えんぼレッド春系R」、地這い系メロン「秋田あんめグリーン」、「秋田あんめレッド」、大玉早生系のスイカ「あきた夏丸ワッセ」、大玉、黒皮で種が少ないスイカ「あきた夏丸クロオニ」を育成し、今後、普及を図る予定である。 ・品種登録申請予定の品種：平成29年度内に、ダイコン等を予定している。 ・現地試験段階の系統：エダマメ品種「秘伝」とほぼ同じ収穫期の秋試18号、秋試20号及び秋試21号、秋冬どり系ネギの秋試交14号、小玉スイカの秋試交26号、秋試交27号、有色系辛みダイコンの秋試交11号、秋試交12号、加工用ダイコンの秋試交10号、秋試交6号dについて、引き続き現地試験で年次変動のデータ取りを行う。 ・場内試験段階の系統：到達目標を達成するため、育種を進めた。 ・その他：イチゴは有望系統の選抜が完了した平成27年度で終了した。現地からの強い要望を受けて、平成27年度に小様キュウリを、平成28年度に大館地大根を課題に追加し、育種を進めた。 <p>(委員の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねぎ、すいか、辛みだいこん、加工用だいこん等は、計画以上に品種開発が進んでいる。 ・オリジナル品種の普及が進んでいるえだまめとすいか、地域特産である加工用だいこん等は、引き続き販売力強化に繋がる品種開発が期待される。 <hr/> <p>A. 計画以上に進んでいる C. 計画より遅れている</p> <p>B. 計画通りに進んでいる D. 計画より大幅に遅れている</p>

4 目 標 達 成 の 状 況	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D ・オリジナル品種は、品種数、栽培面積が増えて、県内産地にとって必要不可欠となっているため、種苗の増殖、供給体制によっては普及が阻められるため、関係機関との検討が必要である。						
	A. 目標達成を阻害する要因がほとんどない			C. 目標達成を阻害する要因がある			
	B. 目標達成を阻害する要因が少しある			D. 目標達成を阻害する要因が大いにある			
総 合 評 価	<input type="radio"/> A 当初計画より大きな成果が期待できる <input checked="" type="radio"/> B+ 当初計画より成果が期待できる <input type="radio"/> B 当初計画どおりの成果が期待できる <input type="radio"/> C さらなる努力が必要である <input type="radio"/> D 継続する意義は低い						
評価を踏まえた研究計画等への対応 引き続き、県内の各種ニーズに対応した品種開発を進めていく。品目によっては、県産品の販売力強化に繋げるため、ブランド化、高単価取引可能な品種の育成を図る。							
(参考)	事前(H26年度)	中間(H28年度)	中間(H29年度)	中間(年度)	中間(年度)	中間(年度)	
過去の評価結果	B	B+					